

- 葉活酢ワンダーランド
 - お酢（ビネガー）で農業を盛り上げたい
 - 発行者： キューピー醸造 梅本和夫
- 毎月15日前後発行（創刊 2021/4/16）

<http://www.kewpie-jyozo.co.jp>



..... by kewpie-jyozo

葉活酢をご愛顧いただき有難うございます。

師走も半ばを過ぎ、一段と冷え込みが厳しい時期を迎えております。年末年始のご準備でお忙しいことと存じますが、宜しく願い申し上げます。

さて毎月1回、定期的に皆さまに葉活酢に関する話題をお伝えしたいと思っています。お酢（ビネガー）の良さを農業関係の皆様と共有出来れば幸いです。

◇12月のピックアップ

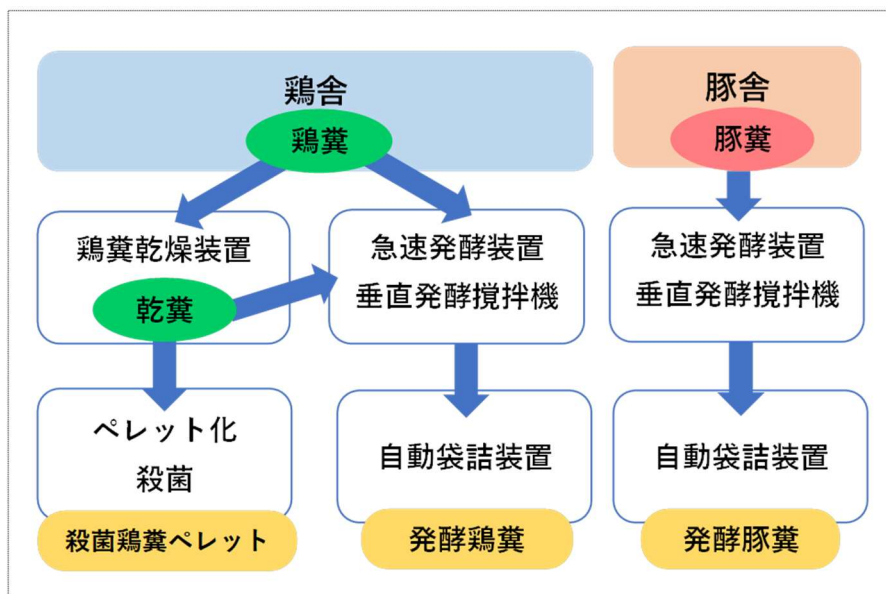
<SDGsを実践されている Crest 社>

今月は愛知県小牧市の株式会社 Crest さまの話題であります。

Crest 社さまは1919年（大正8年）に採卵養鶏業として創業されました。

現在は関東・中部・関西に事業所を展開され、鶏卵（年間10億個を販売）および豚肉の生産・販売（母豚4,300頭を飼育、年間12万頭を出荷）や海外畜産設備および種豚の輸入・販売、有機堆肥の製造販売などの事業を行っています。Crest 社様の環境への取り組み意識は高く、長年にわたり家畜排せつ物の処理・活用には注力されています。

下の画像が取り組みイメージであります。↓↓



鶏糞由来の発酵肥料は、年間15kg袋で130万袋をホームセンターさんやJAさんなどに販売されています。

今回、鶏糞のさらなる高度利用として、施肥し易いペレット状に加工した鶏糞由来の新肥料「ソイルボーン」（上の図の殺菌鶏糞ペレット）を開発されて普及を目指されています。

これまでの鶏糞由来の発酵肥料は、発酵による窒素成分の減少やアンモニア臭が課題でありました。新肥料は一次処理として、鶏糞を鶏舎から発生する排熱を利用して水分12～15%まで乾燥させ、ペレット状に成型して70℃×1時間の二次処理を行って水分10～12%まで乾燥させる工程を3日間で行うそうです。新肥料は従来の発酵肥料と比べて、①窒素成分が高い②ほとんど臭いがない③低水分のペレット状で扱い易い④低温殺菌されているので安心安全であるなどの特徴があるようです。現在全国の農家さんにて肥料効果を検証されています。

試験圃場の画像↓↓



今後も持続可能な開発目標をテーマとして、さらなる環境負荷軽減に取り組まれると聞いております。余談ですが、東京都内の新肥料試用圃場では葉活酢もお試しいています。

キューピーグループにおいても卵殻や野菜未利用部などのさらなる副生産物の活用に向けて取り組んで参ります。

「葉活酢ワンダーランド」の配信は第9号で始めたばかりの試みになりますので、皆さまの応援を頂ければ有難く存じます。

また皆様方からのコメントも寄せて頂ければ大変光栄に存じます。

次回は1月14日の配信を予定しています。

お友達を紹介ください！！

ご紹介頂いた方へ、弊社特製のビネガードリンクを進呈させていただきます。

メール配信を希望されない場合はお知らせください。

最後までお読み頂き、有難うございました。